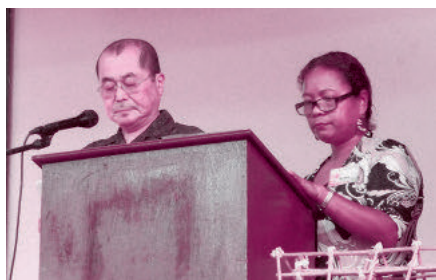




2/17

〔ホストタウン交流促進事業〕
パラオで開催された第9回日本フェアに参加しました



▲挨拶する三次市長



▲満員の会場(ガラマヨン文化センター)



▲ケネリーさんによる本市紹介



▲居合道演武

本市は、パラオ共和国のホストタウンとして、パラオ共和国研修生の受入や県内初の東京2020大会に向けた同国選手団の事前キャンプ実施等、様々な交流事業を展開しています。今回、ホストタウン交流計画の一環として、パラオ国民に本市の魅力やホストタウンとしての取組、文化を紹介することで、パラオ国内での本市認知度を高め、パラオと本市との更なる友好関係を構築することを目的に、日本フェア(主催:在パラオ日本国大使館)に参加しました。

フェアでは、三次市長の挨拶をはじめ、居合道の演武、昨年度まで本市で研修をした常陸大宮国際交流大使ケネリー・レケメルさんによる市の紹介とホストタウン取組事例発表のほか、「あいこでしょ」の掛け声から始まる「ひたまるパラオジャンケン大会」をステージ上で行いました。訪れた700人を超える会場の皆さんからは歓声が上がり、楽しいイベントとなりました。

また、日本文化体験ブースでは、市国際交流協会会員の江戸千家菊池社中の皆さんの協力で、茶室の雰囲気を演出した一室で、心のこもったおもてなしの「茶道」を披露しました。初めて本格的な抹茶を味わった皆さんは「おいしい！おかわりをしたい！」「抹茶はヘルシー！」など感想を述べていました。本市の伝統和紙「西の内紙」を使った「ぶんぶん駒」「ほねなし凧」作り体験では、参加した子どもたちが現地のJICA(青年海外協力隊)スタッフの皆さんに作り方を教えてもらい、完成するとすぐに外で凧を揚げ、駒で音を出す遊びに夢中になっていました。



▲初めての凧揚げとぶんぶん駒



▲パネルで市の取組をPR



▲常陸大宮市をPRするひたまる

そのほか、昨年の事前キャンプで本市で練習をしたパラオ柔道連盟による柔道パフォーマンスや日本語補習校によるダンス発表などパラオの暑さに負けないほどの熱く沸いた日本フェアとなりました。

会場でフェアに参加した方に話を聞くと、「常陸大宮市は、よい取り組みをしている。パラオと常陸大宮市の絆がもっと深まり、お互いの文化等を理解しながら、更に強くつながるようお願いしたい」との声がありました。

※パラオ共和国大統領との面会や事前キャンプ打合せ等の記事は、4月号に掲載予定です。

■問い合わせ■

政策審議室 企画政策課 東京オリパラ推進室
☎52-1111 (内線309)



▲抹茶を楽しむパラオの皆さん